得がたき人の身　あり難い真（まこと）の教え　～曽我ひとみさんの講演をお聞きして～

加茂法話会　平成三十年六月二十五日

一、平成二十年九月のトキ初放鳥以来の十年ぶりに佐渡へ

佐渡市総人口７０，０１５人(１６年３月末)　５５，６５１人(３０年３月末)→約２０．５％減

田上町総人口１３，７６８人(　　仝　　)　１１，９１６人(　　仝　　)→約１３．５％減

＊平成十六年三月一日、旧両津市と九か町村が合併して、佐渡市誕生し、一島一市に。

二、人身得ること難し、佛法値うこと希れなり、今我等宿善の助くるに依りて已に受け難き人身を受けたるのみに非ず遇い難き佛法に値い奉れり、生死に中の善生、最勝の生なるべし、最勝の善身を徒らにして露命を無常の風に任すること勿れ。

私という人の身を頂いたことは真に不思議です。仏の教えを聞くことができたのも不思議としか言えません。今私たちは、自分では理解できない積れる恵みに助けられて、すでに有難い私といういのちを頂いたばかりか、難値難遇な仏の真理に出会わせて頂いているのです。

生き死にはいろいろあるでしょうが、今のいのちが最も貴いのでありすばらしいのです。

尊く、よりよいいのちを虚しく過ごして、露のようにはかないいのちを無常の風にゆだねてはなりますまい。

曹洞宗総合研究センター講師　中野東禅老師　訳

三、曽我ひとみさんの講演　『拉致を風化させないために』

◆曽我ひとみさんについて　北朝鮮による拉致被害者

一九七八年(昭和五十三年)八月十二日(お盆の前日)夕方、五百㍍ほど離れた雑貨屋へお盆の準備の品を買いに行って自宅まで百㍍程の処で、母ヨシミさん(昭和六年生まれ)と共に北朝鮮工作員三人に拉致された。その後、母とは離れ離れになる。

二〇〇二年十月十五日、帰国。二年後に家族も帰国。

◆講演の中で

結婚して、娘が二人。娘の学校行事には一緒に参加させてもらえず、遠くから、見ていた。

氷点下二〇度～三〇度の冬、防寒具を着込んで寝た。電気は簡単に泊まる。洗濯も雨水をためてタライで行う。

買い物は周に一回がやっと、指導員の許可を得て。

好きな時に好きな店に買い物に行くことができない。

お米には石が混じっていた。インドネシアで娘たちと再会したとき「お米って白いんだね」。

一緒に住んでいた拉致被害者の女性がせきが止まらず、医者へ行っても風邪薬しかもらえず、肺がんで亡くなる。

問題は解決していない。救出を待っている家族がいることを忘れないでほしい。

四、私たちは、この世に「ヒト」として生まれ「人間」として生きています。そして、二度とない人生を幸せに生きたいと願っています、不幸な人生を送りたいと思っているはずがありません。

すべての人間は、生まれた時から幸せに生きることのできる権利を持っているのです。このことを「人権」というのです。お釈迦様は「差別することなかれ、差別させることなかれ」といわれます。仏法に出会った私たちは、人々を幸せに導くための人権活動・宗教活動をしていきたいものです。

五、得がたき人の身　あり難い真の教え

永平寺七十四世佐藤泰舜禅師

東龍寺住職　渡邊宣昭　合掌